

繁華街周辺の居住者意識から見た繁華街と地域コミュニティの 持続的関係 その1

日大生産工(院) ○宮尾 直希 日大生産工(院) 井上 裕哉
日大生産工 北野 幸樹

1. はじめに

商店街は、地域居住者の生活において補完的役割をしていきた。同時に地域コミュニティを形成する場としての役割を担ってきた。しかし、少子高齢化や人口減少からの後継者不足、オンラインショッピングなどの消費スタイルの多様化、商業機能が集積されている大型商業施設の進出から商店街の衰退が顕在している。

商店街と大型商業施設がともに立地している繁華街は、周辺地域のみならず来街者にとっても有益であり、地域の持続性に寄与していると考えられる。そこで、商店街と大型商業施設を日常的に利用している繁華街周辺の地域居住者にアンケート調査を行い、まちの持続性に対する意識や繁華街の持続性に対する意識について考察する。

2. 調査概要

表1 アンケート配布場所と性別

	全体	男性	女性	無回答
赤羽	42人	13人	29人	0人
池袋	12人	6人	6人	0人
蒲田	36人	15人	21人	0人
砂町	9人	5人	3人	1人
八王子	20人	11人	9人	0人
新宿	46人	20人	24人	2人
合計	165人	70人	92人	3人

調査は、赤羽、池袋、蒲田、八王子、新宿の商店街と大型商業施設が隣接している地域を対象として、大型商業施設・商店街周辺地域居住者に対してアンケートによる調査を行った。期間は、2023年7月~8月である。

選定条件は、関東地方一都六県における特定行政庁のおかれた都市を対象に商店街と大型商業施設がともに立地し、隣接している繁華街を対象として、商店街が250m以上、大型商業施設の店舗面積が3000㎡以上、商店街と商業施設が500m以内で存在する6地域を選定している。

3. 商店街・大型商業施設への移手段・時間

3-1 商店街利用者

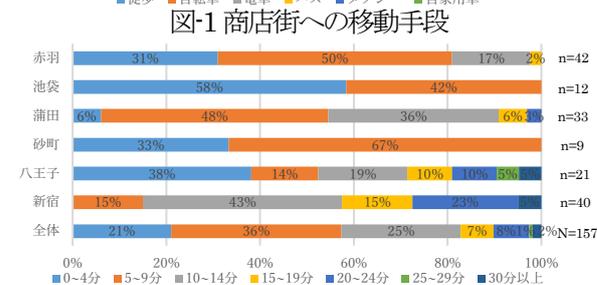
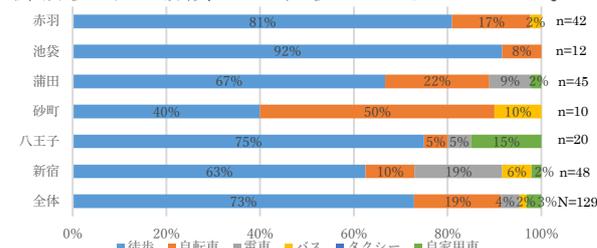
商店街利用者の移動方法は、赤羽、池袋、蒲田、八王子、新宿で徒歩の移動が60%を超えている。砂町は、徒歩の移動が40%となり、自転車での移動は50%となっている。商店街利用者の移動時間は、赤羽、池袋、蒲田、砂町、八王子が0~9分が50%以上となり、新宿は5~14分以内で移動できる人が50%以上になる。

3-2 大型商業施設利用者

大型商業施設の移動方法は、赤羽、池袋、蒲田、新宿で徒歩の移動が60%を超え、砂町は、徒歩の移動が20%となり、自転車での移動が70%となっている。大型商業施設利用者の移動時間は、池袋、砂町、八王子で0~9分の人が50%以上となり、赤羽は0~9分で移動できる人が45%となっている。蒲田は、10~14分が51%となっている。

3-3 商店街と大型商業施設の同時利用者

商店街と大型商業施設を同時に利用している場合には、利用者の移動方法は、赤羽、池袋、蒲田、八王子、新宿で徒歩での移動が70%以上あり、砂町では自転車での移動が75%となっている。利用者の移動時間は、すべての地域で0~14分以内で移動できる人が60%以上となり、新宿以外の場所で75%以上となっている。



Study on Sustainable Relationship between Downtown and Local Community from Viewpoint of Residents' Awareness Around Downtown area Part 1.

Naoki MIYAO, Yuya INOUE and Koki KITANO

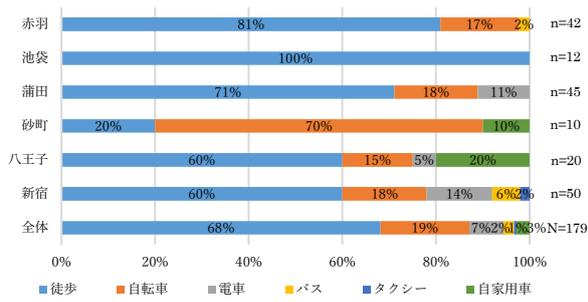


図-3 大型商業施設への移動手段

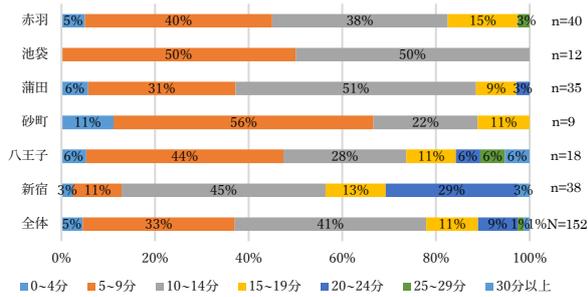


図-4 大型商業施設への移動時間

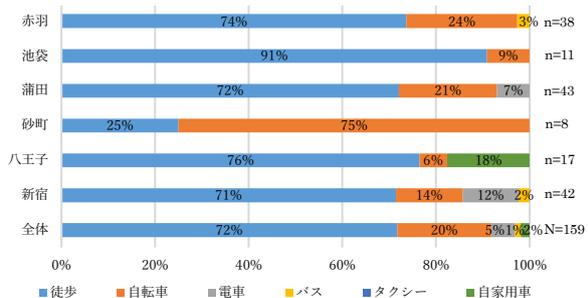


図-5 大型商業施設と商店街同時利用時の移動手段

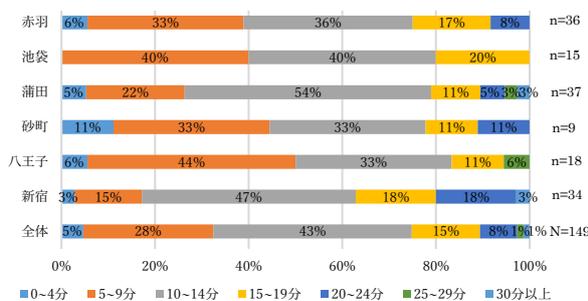


図-6 大型商業施設と商店街同時利用時の移動時間

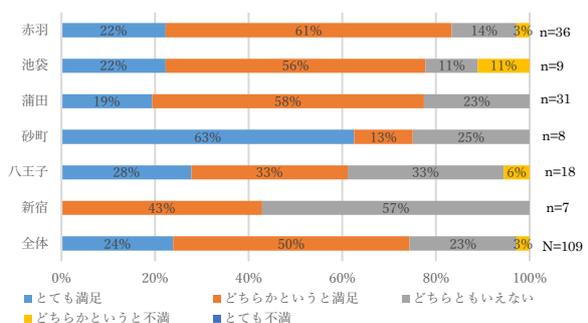


図-7 商店街における買い物利用の満足度

4. 商店街・大型商業施設の満足度

4-1 商店街利用時 (図-7,8,9)

商店街での買い物利用の満足度は、赤羽、池袋、蒲田では、満足層が70%以上となり、新宿では「とても満足」はなく、「どちらかという満足」が約49%となっている。

商店街での飲食利用の満足度は、赤羽、池袋、蒲田、砂町、八王子では満足層が60%以上となり、赤羽と八王子では80%以上となった。池袋、新宿の満足層は、40%以下であり、池袋は20%となった。赤羽、蒲田、八王子は「とても不満」はなく、「どちらかという不満」は、10%以下となった。

商店街での買い物・飲食以外の利用の満足度は、蒲田、砂町、八王子では満足層が50%以上になり、蒲田、八王子の満足層は75%以上となった。赤羽、池袋、砂町、新宿で「どちらともいえない」が50%以上となり、池袋、新宿は、75%以上の値となった。

4-2 大型商業施設利用時 (図-10,11,12)

大型商業施設での買い物利用の満足度は、すべての地域の満足層は70%以上になり、池袋、蒲田、八王子、新宿の満足層は、80%以上になった。すべての地域で「とても不満」はなく、赤羽は、「どちらかという不満」が5%となった。

大型商業施設での飲食利用の満足度は、赤羽、池袋、蒲田、砂町、新宿で満足層が60%以上となり、蒲田、砂町、新宿は、80%以上となった。

大型商業施設での買い物・飲食以外の利用の満足度は、蒲田、砂町、八王子、新宿の満足層が、60%以上となった。赤羽、池袋、八王子は、「どちらともいえない」の値が50%近くとなった。

4-3 商店街と大型商業施設の同時利用時

(図-13,14,15)

商店街と大型商業施設の同時利用時の買い物利用による地域全体の満足度では、満足層が70%以上となり、「どちらともいえない」が17%となった。不満足層は10%以下となった。

商店街と大型商業施設の同時利用時の飲食利用による地域全体の満足度では、満足層が80%となり、「どちらともいえない」が17%となった。「どちらかという不満」はなく「とても不満」が3%となっている。

商店街と大型商業施設の同時利用時の買い物・飲食以外の利用の地域全体の満足度は満足層が70%以上となり、どちらともいえないが22%となった。「どちらかという不満」はなく「とても不満」が4%となった。

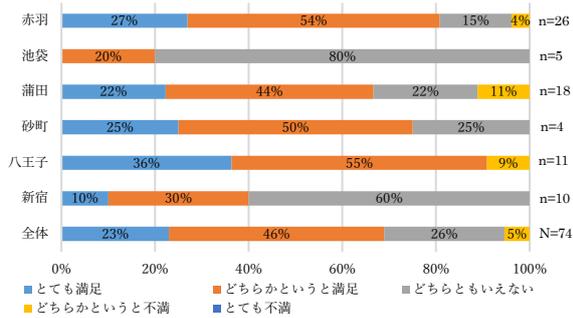


図-8 商店街における飲食利用の満足度

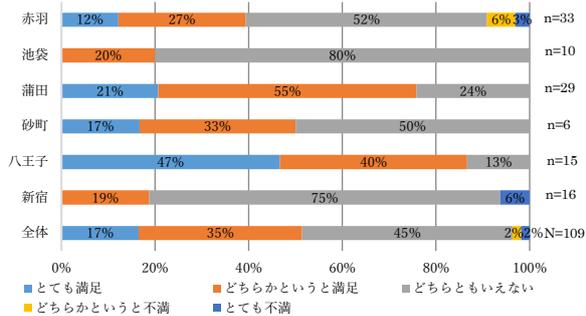


図-9 商店街における買い物・飲食以外の利用の満足度

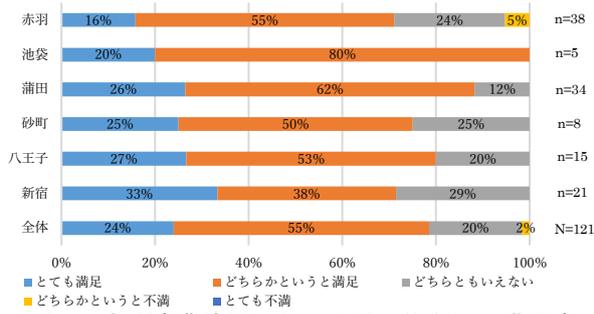


図-10 大型商業施設における買い物利用の満足度

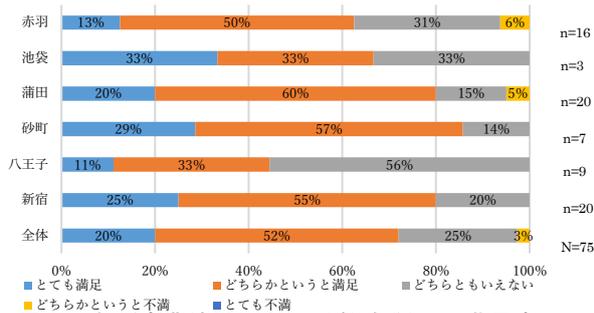


図-11 大型商業施設における飲食利用の満足度

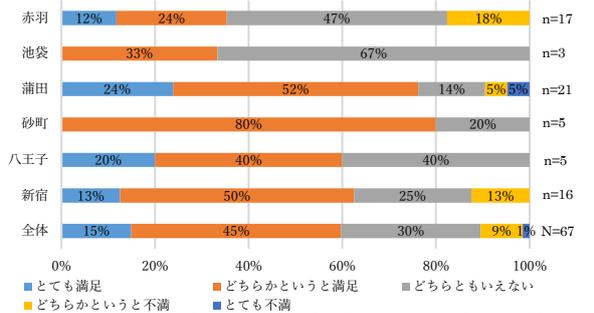


図-12 大型商業施設における買い物・飲食以外の利用の満足度

5. 商店街と大型商業施設の関係性・評価

5-1 商店街と大型商業施設のつながり (図-16)

商店街と大型商業施設のつながりについて、商店街と大型商業施設で購入できるものが異なるのは、赤羽、蒲田、砂町で約30%となった。しかし、池袋、八王子、新宿は、20%未満となった。商店街と大型商業施設とともに地域の活性化に寄与しているのは、蒲田、新宿で約20%となり、そのほかの地域では、15%以下となり、池袋、砂町は10%以下となった。商店街と大型商業施設で地域のまちづくりの役割を担っているのは、蒲田は25%であり、八王子、新宿は約20%となり、赤羽、池袋は約10%となった。商店街と大型商業施設のつながりを持っていないのは、池袋で50%となり蒲田で5%であった。赤羽、砂町、八王子、新宿は、約30%となった。

5-2 商店街と大型商業施設の雰囲気 (図-17)

商店街と大型商業施設の雰囲気について蒲田は、商店街と大型商業施設が隣接しているほうが活気があるが72%となった。赤羽と新宿は約40%となった。池袋は10%となった。

どちらも活気がないのは、池袋が50%となり、八王子が38%となった。赤羽、蒲田、砂町、新宿は10%以下となり、砂町、新宿は0%となった。どちらも活気があるのは、すべての地域が10%以上となり、赤羽、新宿は、20%以上となった。

商店街が単独であるほうが活気があるのは、赤羽、池袋、蒲田、八王子、新宿は、10%以上となり、砂町は38%となった。大型商業施設が単独であるほうが活気があるのは、池袋が20%、砂町が約40%となった。八王子は、10%以下となり、赤羽、新宿は、約10%となった。蒲田は0%となった。

5-3 商店街と大型商業施設の展望 (図-18)

商店街と大型商業施設の両方が大切であり、これからも続いてほしいのは、蒲田が63%となり、赤羽、池袋、砂町、新宿は、約40%となった。

商店街は大切であり、これからも続いてほしいのは、八王子が約40%となり、砂町が約20%、池袋、蒲田は、10%以下となった。大型商業施設は大切であり、これからも続いてほしいのは、池袋、蒲田、八王子で10%以下となり、砂町では20%以上となった。

新しい商業施設、新しい商業施設以外の施設・空間がほしいのは、砂町、蒲田は、25%以下となり、砂町が10%以下となった。池袋、八王子、新宿は、30%となり、池袋は40%以上となった。



図-13 商店街と大型商業施設の同時利用における買い物の利用の満足度



図-14 商店街と大型商業施設の同時利用における飲食の利用の満足度



図-15 商店街と大型商業施設の同時利用における買い物・飲食以外の利用の満足度

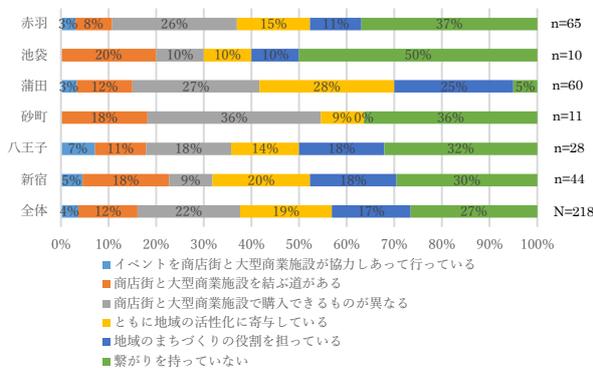


図-16 商店街と大型商業施設のつながり

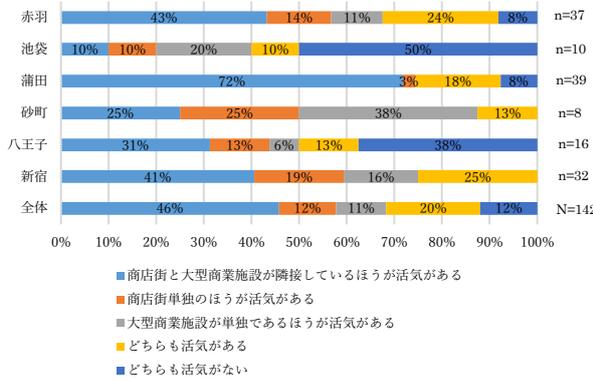


図-17 商店街と大型商業施設の雰囲気

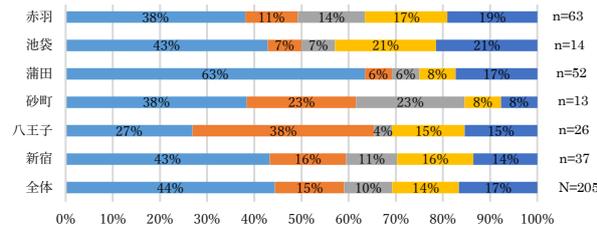


図-18 商店街と大型商業施設の展望

6. まとめ

本研究で得られた商店街と大型商業施設が隣接する場所における周辺居住者の意識と持続的な繁華街のあり方について得られた基礎的知見を整理する。

1) 商店街と大型商業施設の周辺地域居住者は、商店街と大型商業施設の利用を徒歩や自転車で行うことが多いため、大量の買い物や大きいものの買い物をするというよりも生活必需品をふらっと立ち寄って購入していることが考えられる。商店街と大型商業施設を日常的な買い物利用の場とすることが必要といえる。

2) 商店街と大型商業施設がともに隣接している場所の満足度は、ともに大きく不満の値も少ない結果となったため、商店街と大型商業施設が隣接する場所は、買い物や飲食の利用がしやすい場所となっていることが考えられる。商店街と大型商業施設が繋がりを持っていないと考える人は、一定数いるが両方に繋がりがなくても周辺居住者は、日常利用していることが分かった。今後は、商店街と大型商業施設の両社が互いに繋がりを持って存在することで、補完的な役割を持ちながら持続的に周辺居住者に利用される場となるのではないかと考える。

3) 商店街は、大型商業施設に比べ買い物・飲食利用の満足度の値が小さくなった。このことから、商店街は、周辺居住者にとって買い物・飲食利用をする場である意識が高く地域のコミュニティとしてとどまる場であると考えにくい。商店街を地域住民の居場所となることで商店街の発展につながるのではないかと考える。

4) 商店街と大型商業施設の両方が活気があると両方が大切な存在でありこれからも続いてほしいと考える人が多いことが分かった。繋がりについて、イベントを商店街と大型商業施設で協力し合っていると回答する人は少なかったため、イベントを両方で協力し合いながら行い、両者の利用回数が増えることで、持続的な商店街、大型商業施設となるのではないかと考える。

5) 商店街と大型商業施設の周辺に居住者がいることで日常利用され持続的な場所となる。二つの場が周辺地域居住者のニーズに合ったものや居場所を提供し続けることで、両者が持続的に存在することができるのではないかと考える。

参考文献

- 田中康人「中心市街における大規模商店街施設の出口による商店街への影響」、『流通科学大学論集』,2021,第34巻第1号, pp. 138-140
- 商業統計 経済産業省 <https://www.meti.go.jp/statistics/index.html> (参照日 2023年9月25日)